

令和8(2026)年度 学習院大学

総合型選抜(外国高等学校出身者 及び帰国生徒・社会人)

小論文

注意事項

1. 試験開始の合図があるまでに、この注意をよく読んで間違いのないようにしてください。
2. 試験開始の合図があるまで、問題を開かないでください。また解答用紙は机の上に裏返しにしておいてください。
3. この問題は2枚です。落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所のある場合は申し出てください。
4. 解答は必ず解答用紙の所定の場所に記入してください。解答用紙は1枚です。下書き用紙も1枚あります。
5. 文字ははっきり書いてください。解答の文字が読みにくい場合や問題の指示に従っていない場合は点を与えないことがあります。
6. 解答用紙には受験番号を必ず記入してください。
下書き用紙にも受験番号を必ず記入してください。
7. 解答用紙の評点欄には何も記入しないでください。

選抜区分	総合型選抜(外国高等学校出身者及び帰国生徒・社会人)	学部	国際文化交流学部	学科	日本文化学科 国際コミュニケーション学科
試験科目	2025年11月8日 小 論 文	問題用紙		用紙枚数	1枚目／2枚

次の文章を読み、課題一と課題二に答えなさい。

パリから電車で約1時間半のエーヌ県サン・カンタン。公立のアメデ・オザンファン小学校で放課後、子どもたちが仏語の文法や語彙を学ぶ「ワークシヨップ」に臨んでいた。

「この指示形容詞は、なぜ女性形なのでしょう」。教室では、15人程度の児童が板書された文章を読みながら、マルティヌ・ドネット教諭(60)の問いに「続く名詞が女性名詞だから」などと答えていた。

別の教室では、児童が動詞「見る」の活用を暗唱したり、校外ボランティアと向き合い、絵本に出てくる日常的な単語を書き取ったりしていた。

ドネットさんは同校で教壇に立つ一方、約10年前にボランティア団体を設立。読み書きが不得手な児童に対し、教員や地域住民と共にワークシヨップとして補習の機会を提供している。

ボランティアとして関わるイザベル・リュクスローさん(50)は「家庭に本が少なく、外出の機会が乏しい子ほど、読み書きが苦手だと感じる」と話す。エーヌ県は、仏本土の96県の中でも貧困率が上位に位置する。ドネットさんは「最も恵まれない子どもたちにも、将来責任ある立場に就く可能性を与えなければ」と訴える。

仏国民教育省が小学5年生を対象に実施している調査によると(表1を参照)、1987年以降、スペルの誤答率は上昇が続く。25以上のミスをした児童の割合は、同年の6・9%から2021年には27・5%に上った。教育関係者らは、スマホとSNSの浸透で簡略化した単語があふれ、「正しい仏語」を目になくなっていることなどが影響しているとみる。

更に懸念されるのが、「格差」が浮き彫りとなっていることだ。21年の調査で、25以上のミスをした割合を最も所得の高い層と低い層で比較したところ、高い層では14・8%だったのに対し、低い層では36・5%と大きな開きがあった。

そして、こうした格差を固定化しかねない構造的な要因がある。「精緻な文法を持ち、数々の文学作品を生み出した**仏語**」に国民が強い誇りを抱いているという点だ。

学生や社会人を対象にスペルの習熟や改善を目指したオンライン学習ツールを提供する「ボルテール計画」に携わるジュリアン・スリエさん(49)は、『正しいスペルを書けなければ』という社会的圧力は強い。履歴書にスペルミスが幾つかあれば、採用担当者は応募者を『信頼できない』と判断する」と指摘。「職業生活に支障を来すことになる」とも言及した。

教職員組合幹部のギスレーヌ・ダビッドさん(54)は「読み書きが十分にできなければ、市民としての権利が完全には生かせなくなる。不満を抱えて自分の殻に閉じこもってしまい、社会にさらに緊張をもたらす」として、読み書き能力を巡る格差が社会不安の要因になっているとの見方を示す。

2023年には、移民系の若者が警官に銃殺された事件をきっかけに、暴動が全国に拡大した。一般的に移民系の国民は所得が低く、十分な学習機会が得られずに読み書き能力が劣るとされる。このため、職業機会に限られ、所得水準が上向かない「負のスパイラル」に陥りがちだ。暴動は、移民系の若者たちのこうした閉塞感（いそく）を浮き彫りにした。

選抜区分	総合型選抜(外国高等学校出身者及び帰国生徒・社会人)	学部	国際文化交流学部	学科	日本文化学科 国際コミュニケーション学科
試験科目	2025年11月8日 小 論 文	問題用紙		用紙枚数	2枚目／2枚

今年3月、フランスワ・バイル首相(当時)は「書く力を回復する」として、読み書き能力向上に向けた計画を策定する方針を打ち出した。4月の演説では、「必要なレベルに達していない若者は、社会的に最も脆弱な立場にある」と訴えた。ただ、仏紙「ル・パリジャン」によると、6月下旬までを目指していた計画発表は、政局の不安定化で頓挫した模様だ。

政治の牽引力が弱い状況で、難解な仏語そのものや、学び方の抜本的な見直しを求める声も上がり始めている。

ロレーヌ大学で仏語を研究するクリストフ・ベンジトウ氏(47)は、スベルの簡略化を提案し、「書き言葉がエリートにのみ許される社会で良いのか、それとも、より民主的で開かれた社会を目指すのか。我々は選択しなければならない」と呼びかけている。

フランスでは、正しいスペルを習得するために、発音を聞いて単語や文章を書き取る「ディクテ」が伝統的に重視されてきた。

こうした学習方法を改めるべきだとの機運も高まりつつある。教育現場からは、子どもが単語や文法の成り立ちを考えたり、身の回りの物事と結びつけたりしながら、能動的に正しいスペルを学ぶ必要があるとの指摘が出ている。

「世界深層」(前パリ支局 梁田真樹子)読売新聞2025年9月26日朝刊8面より編集

表1 仏国民教育省が2021年に小学5年生を対象に実施した調査結果に基づいて作成。単位%。階層ごとに、該当する子どもの割合を示す

		誤答数			
		5 個以下	10 個以下	15 個以上	25 個以上
所得グループ	高所得	10.7	34	45.5	14.8
	どちらかと言え ば高所得	7.7	20.2	63.6	26.3
	どちらかと言え ば低所得	5.2	20.7	66.5	27.5
	低所得	5.5	17.1	71.8	36.5

課題一 本文では、フランスにおける読み書き能力をめぐる問題について、どのようにまとめられていますか。一〇〇字以上二〇〇字以内で述べなさい。

課題二 本文が指摘する問題について、その内容を明確にし、それについてのあなたの考えを五〇〇字以上六〇〇字以内で論じなさい。

選 抜 区 分	総合型選抜(外国高等学校出身者及び帰国生徒・社会人)	学 部	国際文化交流学部	学 科	日本文化学科 国際コミュニケーション学科	受 験 番 号	
試 験 科 目	2025年11月8日		小論文			用紙枚数	1/1
						評点	

課題二

▲	600	▲	510
---	-----	---	-----

課題一

▲	200	▲	20
▲	120	▲	30

小論文 出題の意図

入試年度：令和 8（2026）年度入学者選抜
選抜区分：総合型選抜（外国高等学校出身者及び帰国生徒・社会人）
実施日：令和 7（2025）年 11 月 8 日

※「出題の意図」についての質問、照会には一切回答しません。

文章を読み解き、複数の意見を参考に「リテラシーと社会的格差」という問題を把握

し、簡潔にまとめる能力を見ること、また、その問題について自分の意見を形成し、

適切な表現と論理性をもって論じる能力を見ること、この二点を意図した課題であ

る。